

### (1) 事業の目的

下水道施設は市民生活や経済活動を支え、水環境の保全を図る社会基盤施設であり、事故発生や機能停止は重大な影響を及ぼす。このため、老朽化が進む下水道施設について、点検調査や効率的な改築更新を行うことで、施設機能の維持を図ることを目的とする。

### (2) 指標：処理場施設の設備の改築更新された施設数

処理場に係る施設及び設備の改築更新された数を指標として設定した。

#### 指標の達成状況

平成30年度末の中間実績値は48%であり、目標値（48%）を達成した。（達成率100%）

計画の成果目標	定量的指標の現況値及び目標値			
	当初現況値	中間目標値	最終目標値	中間実績値
	(H29末)	(H30末)	(R2末)	(H30末)
処理場に係る施設及び設備の改築更新された数	0% (0/147)	48% (71/147)	83% (122/147)	48% (71/147)

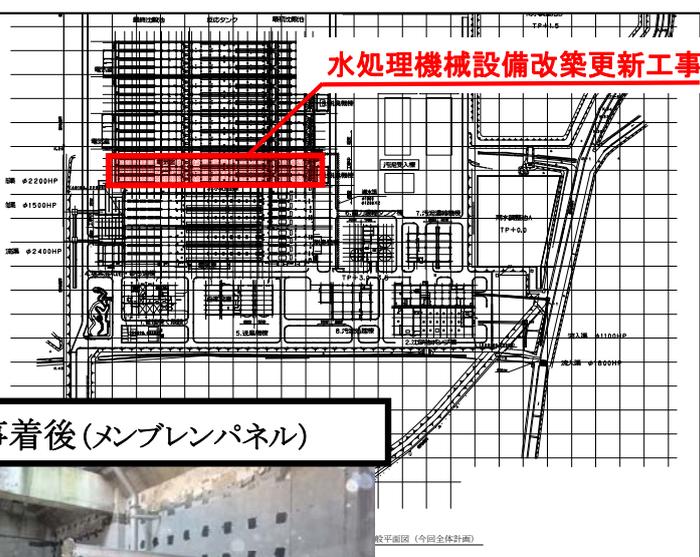
### (3) 指標に関連する実施事例【改築更新された施設】

#### ◆事業の効果(狩野川流域下水道)

狩野川西部浄化センターは、平成6年の供用開始から既に25年が経過し、老朽化が進んでいる。

平成28年度には水処理機械設備の改築更新工事を行うことで、機能停止を未然に防止し、下水道処理機能を確実に確保することが出来た。また、省エネ機器の導入により、維持管理費の低減も図られた。

狩野川流域下水道西部浄化センター平面図



工事着前(セラミック散気板)



工事着後(メンブレンパネル)



維持管理費低減を図る機器に更新

### (4) 定量指標以外の効果発現状況

狩野川東部・西部浄化センターでは、改築更新工事と同時に水処理及び汚泥処理施設の耐震化工事も行うことで、工事による処理施設への影響を最小限に留めるとともに、重複工事を減らすことでコスト縮減を図っている。

### (5) 今後の方針と目標達成見込み

平成31年3月に作成されたストックマネジメント計画による最新の点検・調査結果に基づき、引き続き計画的な改築更新を行うことで目標達成を見込む。